

■福島第二原子力発電所を視察しました

1月16日(水)、福島原発行動隊の隊員8名が東京電力の福島第二原子力発電所を視察しました。以下は、団長の伊藤邦夫氏による視察記です。

●福島第二原発の視察に行ってきた

伊藤邦夫(東大名誉教授、工学博士)

去る1月16日(水)に福島第二原子力発電所の視察に行ってきた。この視察は昨年9月以降に福島原発行動隊が東京電力株式会社に対して福島第一原発を視察させてほしいと繰り返して働きかけた結果として実現したものです。

東電本社アクションプログラム会議(チーム愚公山)のメンバーを中心として、原発ウォッチャーチームなども加えた総勢8名で研修事業の一環として行いました。前日いわき市に泊まり、予定より10分ほど遅れて9時過ぎに現地事務本館に到着し、現地の幹部の方々12名を含む30名ほどの出迎えを受けました。



福島第二原子力発電所

最初に会議室で所長の増田尚宏氏より挨拶と、3.11における第二原発の状況および復旧作業の概要説明を受けました。次いで行動隊側からの挨拶という形で、私が話しました。

お忙しいところのにぎにぎしい対応に対する謝意、(所長さんの事故への初期対応の話を受けての)現場の方々の当時の奮闘に対する慰労・感謝の意を表明するとともに、本来は第一原発の視察を望んでいるにも係わらず第二原発に来た私達の目的「本店とは感覚が違うかも知れない現場の方のご意見を聞くため、および私達が参加できる収束作業に関する情報を求めて来た」を述べました。

今泉副所長による配布資料に基づいた第二原発の被害状況と復旧作業現況の詳細な説明の後、以下の順番で現場に案内されました。屋外の移動はバスで、建屋内の移動は徒歩でした。

- ①研修棟(サイトシミュレーター：地震を想定した操作訓練)
- ②1号機原子炉建屋南側道路(D/G(A)給気処理ルーバー外側、15.4m防潮堤、Hx/B非常用電源ケーブル)
- ③1号機海水熱交換器建屋(北側)(電源盤P/C 1D-2室、RHRSポンプ(B)、(D)、RHRCポンプ(B)、(D)、EECWポンプ(B))
- ④3号機原子炉建屋(6階オペフロ→2階MSトンネル室

→TIP室・駆動装置室 → MSIV→PLRポンプ(A)→ペDESTAL(右写真参照)

- ⑤3号機タービン建屋・地下2階(HSCR凝縮水移送ポンプ、MUWCポンプ)
- ⑥モニタリングポストNo.7、
- ⑦121会議室(テレビ会議システム)

バスによる移動の間にも、それぞれの場所で説明がありました。このルートには私達が事前に希望していた箇所の多くが含まれていました。

事務本館に戻った後、会議室で私達の事前質問書に対する回答が増田所長より口答でなされ、引き続き質疑を行いました。

例えば、「第二原発の復旧作業における放射線障害防止に適用されている法律は何か」という問いに対しては「建屋内は既に通常の原子炉と同じである。敷地内は第一原発による汚染地域であり、特定汚染土壌を扱う作業には除染電離則が適用される」というような答えがありました。

また、「私達シニアが現場作業に参加することに対する現場サイドの考えはどうか」という問いに対しては「ありがた迷惑というわけではないが、それを必要としているわけではない」というような答えがありました。

最後に事務本館玄関口での記念撮影した後、所長さん以下、所員の皆様のお見送りを受けたときは1時半を過ぎていました。

■川内村でモニタリングを実施しました

昨年末、福島原発行動隊の隊員4名が、川内村でモニタリングを行いました。以下は、この活動に参加した室岡喜一郎氏のレポートです。

福島原発行動隊は2012(平成24)年12月19日から20日にかけて、福島県双葉郡川内村にて広範な環境放射線のモニタリング活動を行った。塩谷亘弘団長以下、伊藤行夫、伊藤勝芳、室岡喜一郎の



3号機の格納容器内、圧力容器の真下(ペDESTAL)。表示されている線量は0.34mSv/hとかなり高い。



4名は初日の19日に公的除染を済ませた住民より依頼を受け、大きな平屋の屋内外約40ポイントを計測しデータを集めた。

結果は屋内の表面及び高さ1メートルでも毎時0.1 μ Sv台で、都心とほぼ同程度であり天井に近い所でも0.3 μ Svは越えず生活に支障を来すレベルではない。

(詳細は塩谷団長の公式報告書を参照されたし)。

ただし屋外の田畑、私道、農道、雨水枡、側溝等はまだ除染されておらず、ある排水口直下では7 μ Svを越えるホット・スポットが見つかった。またアスファルトの農道と田畑の境目は1 μ Svを越えており、最大3 μ Sv台のホット・スポットがある。

翌20日は家森と室岡がレンタカーを使い、広範囲に仮置き場や除染対象家屋の下見調査を行った。線量は予想に反し概して低く、地表でも千葉県東葛地域並(0.3-0.4 μ Sv/h)の線量であり、ホット・スポットも3 μ を超えるものは見つからなかった。川内村の汚染状況は「薄く広く」と思われる。

活動中は事故も怪我もなく午後3時位に無事所定の活動を終えた。

■ 請願署名へのご協力ありがとうございました 第2次請願署名もよろしく願います

昨年10月から展開しておりました公益社団法人福島原発行動隊の「請願署名」活動ですが、全国の行動隊および賛助会員の皆様のご協力により約3,000筆の署名を集めることができました。

この署名につきましては、来月早々に衆参両議院でご支援くださる議員を通じて、内閣府および関係省庁に提出いたします。

なお、福島原発行動隊としては、今回の請願署名について、さらに多くの人々のご理解とともに賛同者を募るために、第2次募集を展開していきたいと考えています。第2次募集は3月15日が締切です。

新たな請願署名の用紙は、福島原発行動隊のwebサイトに掲載いたしますので、皆様におかれましては

■ ご寄附いただいた皆様へ 税制優遇措置について

公益社団法人福島原発行動隊に昨年4月1日以降ご寄附された方々には、税制上の優遇措置があります。

確定申告時に必要とする「寄附受領証」を希望される方には交付します。併せて「税額控除に係る証明書」を必要されとされる方にお送りいたします。受領証等を希望される方は、以下までお問い合わせください。

電話：03-5980-8535 (事務局担当 佐々木)

E-mail：svcf-admin@svcf.jp

また、税制優遇措置については、地方税(例えば個人住民税)も対象になりますので、お住まいの市区町村役場にお問い合わせください。

手数ですが第2次募集の用紙をダウンロードしていただき、引き続き「請願署名」をお集め頂きたく、ここにお願ひ申し上げます。

福島原発行動隊としては、この請願署名活動は単に請願署名を集める活動として取り組んでいるだけでなく、私たちの理念や活動を広く多くの人々にご理解いただき、ご賛同を得ることを目的としております。

皆様のさらなるお力添えで、多くの請願署名を集めたいと思いますので、ご協力の程よろしく願ひいたします。

※請願署名の街頭活動を展開していただける方で、行動隊&賛助会員の募集チラシなどを必要とする場合は事務局へお申し出ください。

また、数に限りがありますが、ノボリやゼッケンを貸し出すことも可能ですので、必要な方にはお貸ひいたしますのでご相談ください。

■ 原発ウォッチャー報告 (2012年12月分)

項目	東電発表内容	原発ウォッチャー所見
使用済み燃料貯蔵プール	1~4号機水温12~22℃。 4号機：カバー・燃料取扱い設備構築中 3号機：滑落鉄骨撤去完了。構台設置作業中 共用プール内部点検開始。乾式11基を含め56基のキャスクを製造中	いずれも安定 H25年度中頃からの燃料取出へ向けての準備が急ピッチ。仮設備にならないか注視したい
原子炉の冷却	反応容器底部・格納容器気相部は約23~38℃とさらに低下	温度計の破損が続き、代替温度計の設置に忙しい
滞留水処理	貯蔵タンクからの漏洩対策として、土堤設置工事中 既存タンク容量 27.8万m ³ 空き容量 3.8万m ³ 増設予定容量 30.0万m ³ 地下水バイパスパイロット揚水井2本完。汲み上げ水のCs137は検出限界未満 多核種除去装置(ALPS)のHotテスト準備中。発生廃棄物の保管容器のテスト中	タンクがボルト留めという構造上の問題が顕在化か 地下貯水槽が既存・増設合わせて5.8万m ³ となる。安全性要注視 地下水流入低減効果の検証はこれから 規制庁の許認可も含め、時間がかかっている様子
海洋汚染防止	遮水壁の鋼管矢板打設は2013年3月~2014年3月を予定	揚水井からの汲み上げとの組合せで複雑な地下水流が予測される
ガレキ伐採木	敷地境界線量低減のため、高線量ガレキや伐採木を敷地中央に移動	土嚢で仮遮蔽するなど、応急処置に忙しい様子
汚染水処理発生スラッジ	アレバ製Cs除去装置から発生したスラッジは、いまだサンプリング方法や性状調査の段階	高線量スラッジの処理、保管管理は長期にわたる重要な課題